

## 平成 30 年度練馬区災害医療運営連絡会 会議要録

- 1 日時 平成 31 年 3 月 27 日（水）午後 3 時 00 分～ 4 時 15 分
- 2 会場 練馬区役所本庁舎 7 階防災センター
- 3 出席
- |       |      |                 |
|-------|------|-----------------|
| 三宅 康史 | 委員   | (帝京大学医学部)       |
| 伊藤 大介 | 委員   | (練馬区医師会)        |
| 浅田 博之 | 委員   | (練馬区歯科医師会)      |
| 上原 正美 | 委員   | (練馬区歯科医師会)      |
| 関口 博通 | 委員   | (練馬区薬剤師会)       |
| 伊澤 慶彦 | 委員   | (練馬区薬剤師会)       |
| 植村 光雄 | 委員   | (東京都柔道整復師会練馬支部) |
| 江原 秀夫 | 委員   | (東京都柔道整復師会練馬支部) |
| 杉田 学  | 委員   | (順天堂練馬病院)       |
| 岩崎 登  | 委員   | (順天堂練馬病院)       |
| 光定 誠  | 委員   | (練馬光が丘病院)       |
| 河原 丈浩 | 委員   | (練馬警察署警備課)      |
| 寺坂 俊二 | 委員   | (光が丘警察署警備課)     |
| 塚本 栄  | 委員   | (石神井警察署警備課)     |
| 鈴木 重之 | 委員   | (練馬消防署警防課)      |
| 鈴木 宏治 | 委員代理 | (光が丘消防署警防課)     |
| 関 政幸  | 委員   | (石神井消防署警防課)     |
| 森田 泰子 | 委員   | (地域医療担当部長)      |
| 唐澤 貞信 | 委員   | (危機管理室長)        |
| 矢野 久子 | 委員   | (保健所長)          |

## 【事務局】

枚田 朋久	地域医療課長
阿部 友和	防災計画課長
中島 祐二	医療環境整備課長
太田 留奈	石神井保健相談所長

## 4 議題

- (1) 平成 30 年度 練馬区災害医療運営連絡会専門部会の検討結果報告
- (2) 平成 31 年度 練馬区災害医療運営連絡会の検討事項について

## 5 報告事項

- (1) 平成 30 年度 医療救護所訓練結果報告について
- (2) 平成 30 年度 衛星携帯電話通信訓練結果報告について
- (3) 平成 30 年度 EMIS 訓練結果報告について
- (4) 平成 30 年度 東京都（区西北部）災害医療図上訓練について

## 6 配付資料

- (1) 資料 1 平成 30 年度練馬区災害医療運営連絡会専門部会の検討結果報告
- (2) 資料 2 練馬区災害時における医療救護班等活動マニュアル（案）
- (3) 資料 3 医療救護所周知チラシ
- (4) 別 添 医療スタッフ用簡易マニュアル（練馬区医療救護カレンダー2019）
- (5) 資料 4 平成 31 年度練馬区災害医療運営連絡会の検討事項について
- (6) 資料 5 平成 30 年度医療救護所訓練結果報告
- (7) 資料 5-2 平成 30 年度医療救護所訓練の課題と対応案
- (8) 資料 6 平成 30 年度衛星携帯電話通信訓練結果報告
- (9) 資料 7 平成 30 年度 EMIS 訓練結果報告
- (10) 資料 8 平成 30 年度東京都災害医療図上訓練
- (11) 参 考 練馬区災害医療運営連絡会設置要綱

## 7 会議の概要

### (1) 平成 30 年度 練馬区災害医療運営連絡会専門部会の検討結果報告

検討事項 1：災害時における医療救護班等活動マニュアルの策定について

検討事項 2：区民向け医療救護所周知の検討について

その他 1：練馬区医療救護カレンダー2019 について

その他 2：救護所の備蓄医療資材および医薬品の見直しについて

⇒ 資料 1～3、別添により事務局から説明

【委員】 医療救護所の周知チラシの裏面に医療スタッフカードのイメージが載っているが、これは他の医療従事者についても使用するものなのか。災害時には、自称医療職が紛れ込んでしまうと聞いている。

【事務局】 このカードについては、事前にご登録いただいた看護師について交付しているものであり、他の医療職については、交付していない。発災時には各師会からあらかじめ決められた医療スタッフを派遣していただくわけだが、状況によっては別の方が従事する可能性もある。網羅的にカードを交付するのは難しいと考えている。

【委員】 例えば、日本医師会であれば資格証を発行している。他の師会でも同様かと思うので、それを災害時には提示することになるのではないか。

【委員】 マニュアルには抜け落ちている部分かと思うので、参集した医療スタッフの資格確認等の方法を今後追記するべきだろう。

【会 長】 まずは、今年度作成したマニュアルで運用をしていこうと考えている。その中で挙げられた課題については、その都度検討をしていき、マニュアルに盛り込んでいく。引き続きよりよいものになるよう検討させていただく。

**(2) 平成 31 年度 練馬区災害医療運営連絡会の検討事項について**

⇒ 資料 4 により事務局から説明

【事務局】 検討の中で、挙げられている項目以外の検討事項があれば、必要に応じて協議していく予定である。

**(3) 平成 30 年度 医療救護所訓練結果報告について**

⇒ 資料 5 および 5-2 により事務局から報告

【会 長】 大泉西中学校の訓練では、多くの生徒もご参加いただいた。医療救護所だけでなく、避難拠点の運営にご協力いただければ、災害時には非常に心強い。すべての訓練でできるものではないと思うが、訓練時には引き続き生徒参加の声掛けをしていきたい。

訓練にご参加いただいた委員の方から意見を伺いたいのだが、いかがか。

【委 員】 今年度で、10 か所の医療救護所訓練が一巡したとのことで、区の中で災害時医療についての知識やノウハウが蓄積されてきていると感じる。四師会（練馬区医師会、歯科医師会、薬剤師会、柔道整復師会）の方々もだいぶ慣れてきており、また最近では看護師が加わり、医療面では改善が見て取れる。ただし、指揮命令系統や搬送については、不安が残る部分もあるので、今後改善をしていってほしい。

【事務局】 看護師については、平成 28 年度より医療救護所に従事する看護師の事前登録制度を開始し、現在は 78 名の方々にご登録いただいている。ただし、自宅または勤務先の近隣の救護所に参集するという性質上、救護所ごとの登録数に偏在があるので、今後とも周知し、医療救護所機能の一層の強化に努めていきたい。

【会 長】 来年度も 2 校医療救護所訓練を予定している。引き続き、ご協力をお願いしたい。

**(4) 平成 30 年度 衛星携帯電話通信訓練結果報告についておよび  
平成 30 年度 EMIS 訓練結果報告について**

⇒ 資料 6 および 7 により事務局から説明

【委 員】 衛星携帯電話の通信訓練について、もう少し具体的に訓練内容をお聞きしたい。

【事務局】 災害拠点病院（2 か所）、災害拠点連携医療機関（6 か所）、専門医

療拠点病院（3 か所）、練馬区医師会の合計 12 か所と年に 2 回ずつ通信訓練を行っている。それぞれ配備されている衛星携帯電話から災害対策健康部の衛星携帯電話に架電していただき、被害状況等の報告をするものである。

【委員】 練馬区医師会の衛星携帯電話については、会長に配備されているのだが、そのような訓練をした記憶はない。医師会のどこで通信訓練を行っているのか。

【事務局】 練馬区医師会については、事務局と通信訓練を行っているので、事務局が衛星携帯電話を保有しているものと認識していた。医師会の衛星携帯電話の配備状況と運用実態については、早急に確認する。

#### （5）平成 30 年度 東京都（区西北部）災害医療図上訓練について

⇒ 資料 8 により事務局から説明

【委員】 各区がどのような課題や問題認識を持っているのかということが把握できた。しかし、この訓練では、警察や消防が参加していなかったため、規制がかかっている幹線道路にはどのようにしたら通行できるのか等の災害時にどのような動きをするのかが分からなかった。警察、消防、自衛隊との情報のやり取りについてももう少し知りたかった。

【事務局】 交通規制がかかったときに通行できる許可証を平時に申請しており、災害時には、それを警察で提示することで通行できるようになっている。区の現在の取組みとしては、災害時の協定を締結している事業者の車両を登録し、災害時には、患者等を搬送する体制を整えている。

【委員】 発災 72 時間以内に、そもそも車両が通行できるように道路啓開が進むのか、交通規制はどこでどのように行われるのか等のことが、訓練の時に情報としてあれば、もっと踏み込んだ話ができただろうかと思う。

【会長】 発災時には、この会場（本庁舎 7 階防災センター）が災害対策本部となり、警察、消防、自衛隊等の関係機関が集まり、情報を集約する。その情報を使い、区災害医療コーディネーターが医療的な部分を判断いただくことになる。

【委員】 4 年前にも東京都（区西北部）災害医療図上訓練を行っているが、東京都は F A X での情報のやり取りを重んじているように感じる。実際に F A X を使用してみるとその受信データが溜まってしまい回らない。電話にしても発災直後はなかなか繋がらないかもしれない。一方、在宅療養の分野では、I C T を活用してグループチャットのようなもので、多職種間で情報を連携している。電話や F A X を情

報連絡の主な手段としてしまうのではなく、そのような手段の検討も今後必要なのではないか。

【委員】 このような多職種が集まって行う図上訓練もなかなかないので勉強になった。区に様々な情報が集まると思うが、その情報をうまく整理することができるのかということが少し不安に感じた。

【委員】 会として初めて参加したが、初動期や交替要員を派遣する際の連絡手段について、あらためてルール作りの検討が必要であると感じた。

【委員】 地域災害医療コーディネーターとしての参加だったが、病院での役割がある中で、どこまでコーディネーターの役割を担えるかということを考えるきっかけになった。

【会長】 情報の整理については、完璧にこなせるとは言えないが、適切に判断し、整理できるよう、日頃から訓練を積み重ねていければと考えている。様々なことを考える良い機会になったので、顕在化した課題を解決できるよう検討を重ねていく。

#### (6) その他

【会長】 特になければ、今年度の災害医療運営連絡会は閉会とする。